

柄鏡形住居址とその遺物について

千葉市源町・餅ヶ崎遺跡

横 田 正 美[※]

I はじめに

餅ヶ崎遺跡は、動物公園建設に先立って行なわれた埋蔵文化財分布調査の際確認されたもので、14ヘクタールにおよぶ広大な台地上を対象として昭和50年度以降3次にわたって実施された予備調査の結果、先土器時代、縄文時代早・中・後期から歴史時代にかけて営なまれた大規模な遺跡群であることが判明した。

発掘調査は、昭和54年度以降継続して実施されているが、縄文時代遺物は中期末から後期初頭に属するものを主体にするほか、早期撚糸文系および条痕文系土器群が認められる。また先土器時代遺物としてはナイフ形石器の出土も報じられている。

昭和56年度までの調査で検出された遺構は、縄文時代早期に属する住居址1、炉穴6、Tピット2の他はすべて中期末から後期初頭に属するもので、住居址52址、土壌105基である。その大半は加曽利EⅣ式期に所属する。土壌のうち25基には貝層が形成されていた。歴史時代遺構としては、国分式期の住居址26址、土壌5基、方形周溝状遺構1址が検出されている。

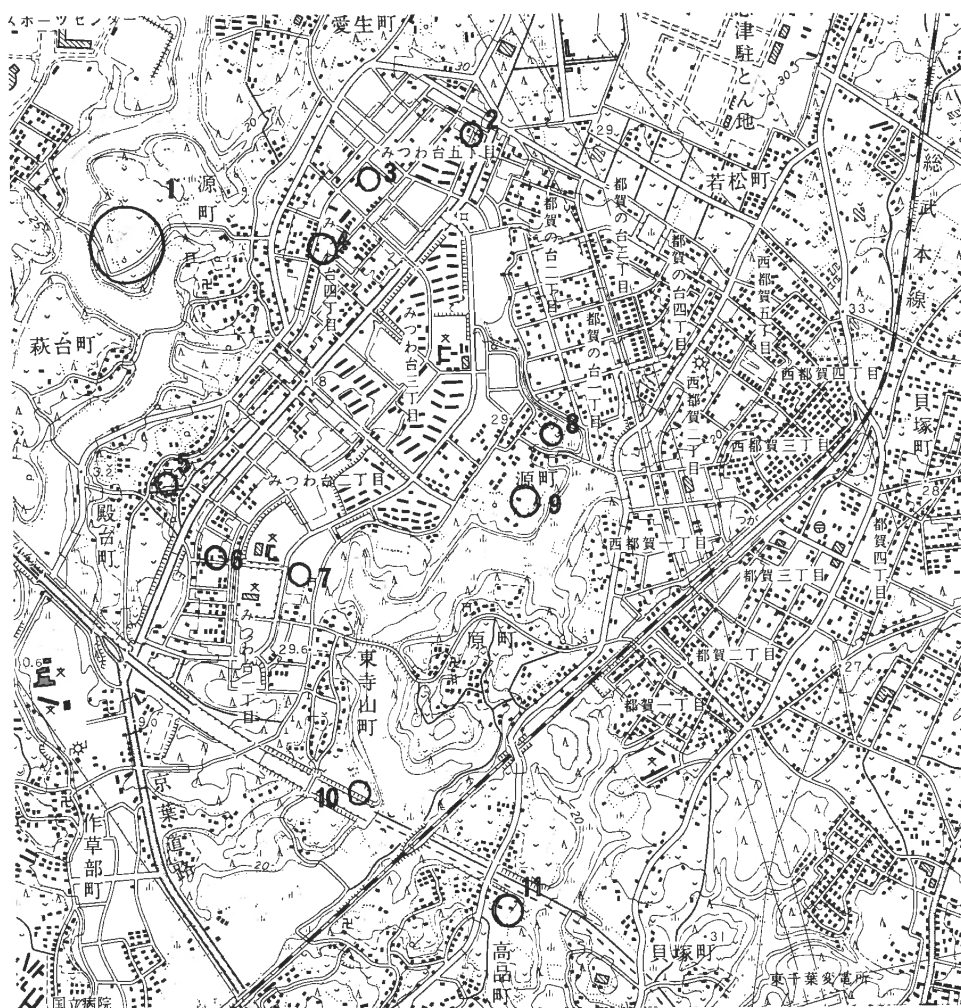
ここに紹介する柄鏡形住居址は、昭和56年度調査で検出されたものである。

II 遺跡の立地と周辺遺跡（図-1）

千葉市源町餅ヶ崎に所在する餅ヶ崎遺跡は、西側に葭川を臨む洪積台地上に立地している。愛生町周辺に源を発し南に流路をもつ葭川は、南流すること約4kmで谷口部に到達し、源町北部に源を有する東側の支流と合流し、またここで貝塚町周辺の小支谷から西流してきた流れを併せて、広大な沖積低地の中を約2km南に流れ、西流して東京湾に注ぐ都川に合流する小河川である。この広大な沖積低地は市街化され、また上流域の開発・宅地化が進んだ現在では水量豊かな往事の俤を求めることは困難になっている。

餅ヶ崎遺跡ののる台地は、谷口部から約2.6kmさかのぼった葭川谷の右岸、西方に大きく張

[※]千葉市教育委員会文化課



図・1 餅ヶ崎遺跡周辺の主な縄文時代遺跡

- | | |
|--------------|-----------|
| 1 餅ヶ崎遺跡 | 7 東寺山貝塚 |
| 2 紅嶽台遺跡(湮滅) | 8 廿五里北貝塚 |
| 3 北前原遺跡(半壊) | 9 廿五里南貝塚 |
| 4 すすき山遺跡(湮滅) | 10 石神遺跡 |
| 5 殿山貝塚 | 11 高品第2遺跡 |
| 6 殿台前貝塚(湮滅) | |

り出した独立台地である。この台地上は14ヘクタールの広い平坦面を有するが、北・西・南方から浅い谷が入り込んでおり、台地面高度25～28mの緩やかな波状を呈している。沖積面との比高差は15mほどである。

葭川流域は、都川流域とともに稠密な遺跡分布が認められる地域であり、また縄文時代中期

から後期にかけて形成された大型貝塚の群在する地域でもある。

餅ヶ崎遺跡周辺の縄文時代遺跡のうち主なものを掲げると、葭川谷の谷口部から0.8 km上流で北々東に侵入する小支谷の左岸には殿台貝塚（中・後期）、右岸には殿台前貝塚（中・後期、湮滅）があり、小支谷奥部左岸にはすすき山遺跡（中期、湮滅）、最奥部右岸の谷頭には北前原遺跡（早・中・後期、半壊）がある。

東側の支谷の谷口部左岸には石神遺跡（早・中・後期）、右岸には高品第2遺跡（前・後期）、支谷中流の左岸には東寺山貝塚（中・後期）、廿五里南貝塚（中・後期）、廿五里北貝塚（中・後期）といった大型貝塚が集中し、谷奥部右岸には紅嶽台遺跡（前期、湮滅）の所在が知られている。

このように縄文時代早期から後期にかけて多くの遺跡が認められ、とくに中期から後期にかけて多くの貝塚が形成されるが、葭川谷および小支谷に面した遺跡では小型の貝塚が残されるのと対照的に東側の支谷左岸には大型貝塚の形成が注目されるところである。

この葭川流域には、縄文時代以降も各時代にわたって多くの遺跡が残されており、葭川とともに生活した人々の営みのあとをたどることができる。

Ⅲ 検出遺構（図-2）

ここに掲げる張り出し部をもった住居址は、いわゆる「柄鏡形住居址」といわれるもので、第4次餅ヶ崎遺跡発掘調査により検出されたものである。以下、この検出遺構について述べてみたい。

プランは、全長約6.8 mを測り、直径約5.0 mの円形プランに、幅1.4 m（最大部）、長さ1.8 mの張り出しをもち、柄鏡状を呈するものである。

床面は円形プランから張り出し部までわりあいに平坦である。壁高は円形プラン、張り出し部とも約20 cmであり明瞭に立ち上がっている。

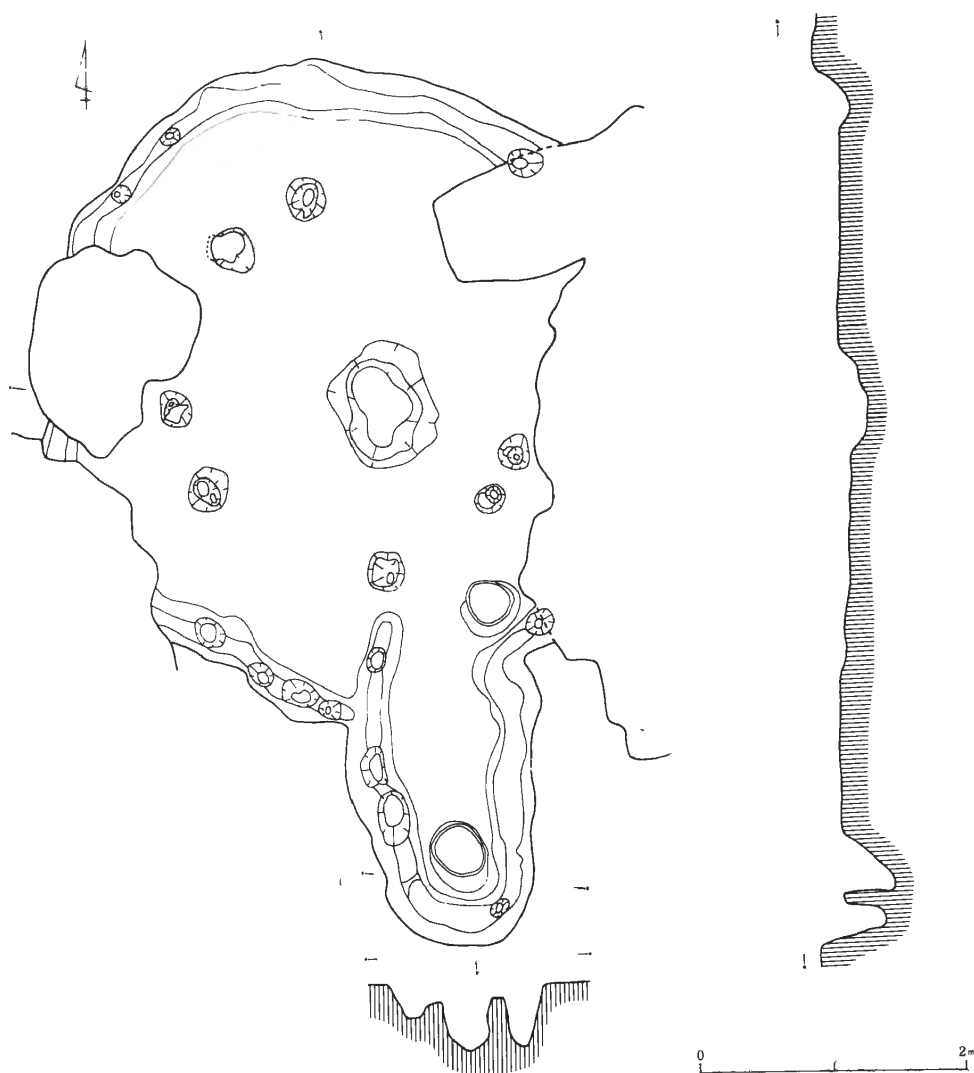
周構は円形プラン、張り出し部とも全周しており、張り出し部の周構の1部は円形プラン内に入り込んでいる。周構幅は平均して30 cmを測る。

炉址は長辺0.9 m、短辺0.7 mの長方形を呈し、深さ20 cm程に皿状に掘り込んだものである。

柱穴は炉址を中心にして楕円周上に配列されている。一部が攪乱の為にはっきりしないが、7本の柱穴が現存し、この他にも攪乱中に1～2本の柱穴があったものと思われる。これらの柱穴は径が30 cm前後、深さ30 cmを測る。また周溝内にピットがいくつかみられるが、柱穴であるのかは定かではない。

埋甕は2個埋設されていた。即ち、1個は張り出し部先端に、もう1個は張り出し部と円形プランとの結合部右側（東側）寄りの周溝近くに埋設されていた。

以上、餅ヶ崎遺跡検出の張り出し部をもつ住居（柄鏡形住居址）の概要を述べてみた。



図・2 柄鏡形住居址—餅ヶ崎遺跡—

Ⅳ 埋設土器 (図-3)

次に埋設された土器について述べてみたい。前記のように埋設土器は2個体あり、1は、張り出し部先端に、2は、張り出し部と円形プランとの結合部にそれぞれ埋設されていた土器である。

1は、口径40cm、器高52cm、底径9cmを測る。胴部上半及び口縁部が内彎し、胴部中央でややくびれ、胴部下半がやや張る深鉢である。口縁部に一条の微隆起帯がめぐり、小突起がつく。胴部には微隆起帯により曲線的な区画がなされる。いわゆる「〇」状や「U」状の文様

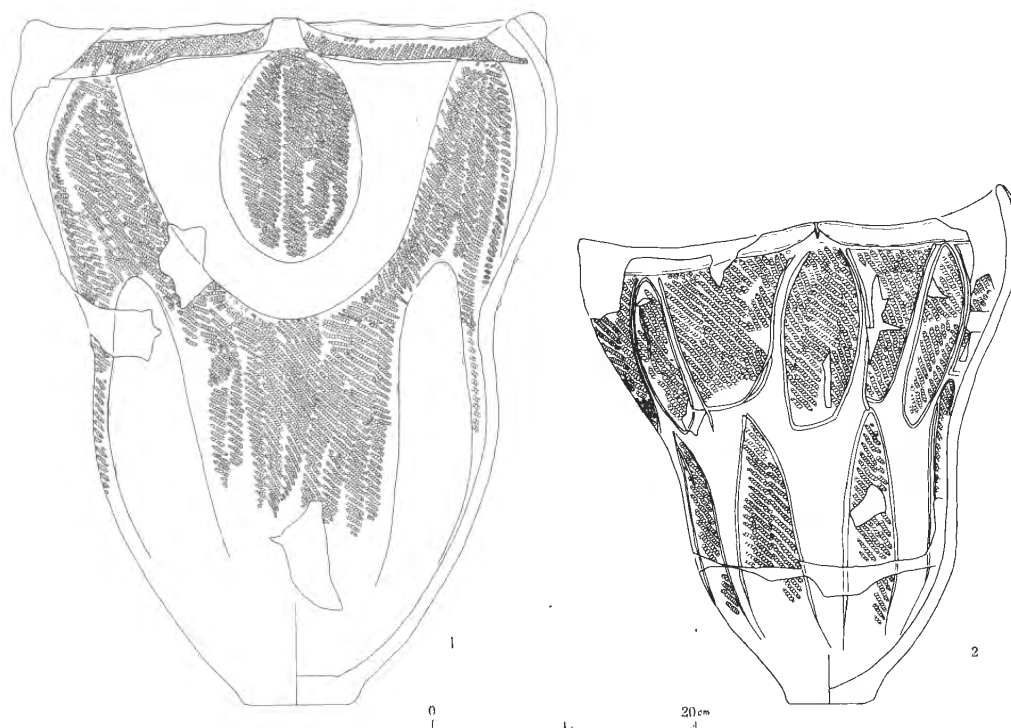
で、この区画内は磨消帯になる。また、口縁部にめぐる微隆起帯と口唇部の間には、縄文が施されている土器である。

2は、口径33cm、器高36cm、底径7cmを測る。口縁部はゆるい波状を呈す。1と同様に、胴中央部でかるくくびれ、口縁部は内彎し、胴下半部がやや張り底部へとつづく深鉢である。口縁部に一条の微隆起帯がめぐる無文帯をなす。この無文帯のつなぎ目がやや張り出している。胴部は細い沈線による「O」・「U」・「八」状の区画がなされ、その区画内に縄文が充填されている土器である。

以上、住居址内に埋設されていた土器について述べてみた。これらはいずれも縄文時代中期末、加曽利EⅣ式期のものであり、この柄鏡形住居址もこれらの土器と同時代のものであることは間違いないのであろう。

V まとめ

これまで、餅ヶ崎遺跡検出のいわゆる「柄鏡形住居址」とその埋設土器について概要を述べてきた。この柄鏡形住居址は、中期末に南関東西部地域を中心に盛行期をむかえたという。この中期末という時代は縄文時代の変遷過程のうえで後期へと移る大きな変動期であったということはいうまでもない。これは汎関東的なものであって、千葉県下においては、中期終末期に



図・3 埋設土器

至って集落が営まれ、この時期に限られるという遺跡の事例が多い。そして周知のとおり後期以降の大規模な貝塚や集落が営まれていくのである。しかしながら南関東西部地域で盛行期をむかえた柄鏡形住居址が千葉県下においてその事例が数少ないということである。わずかに金楠台遺跡にその典型的な例をみるだけであって、むしろ、県下においては後期にその盛行期をむかえるという。これは郷田良一氏の研究に詳しいのでここではふれない。また氏は、この研究の中で、柄鏡形住居址の盛行期における形態・構造等の特徴を指摘しているので、これを引用させていただく。(1)住居本体は円形を基調とし、前時期に比べてやや小形化している。(2)柱穴は、ほとんど例外なく壁柱穴となる。(3)張出部はいわゆる長柄型が主流を占める。(4)山岳丘陵地帯では部分あるいは全面に敷石を施す例が多い。(5)張出部先端及び張出部と住居本体の結合部に埋甕が埋設される例が多い(どちらか一方の場合もある)、ということである。餅ヶ崎遺跡の柄鏡形住居址は、(2)の壁柱穴ではなく、むしろ志久遺跡8号住居址のように炉址を中心として支柱穴が配されている。また金楠台遺跡2号住居址は張り出し部が一段高くなっているが、むしろこの方が特異な例ではあるまいか。また餅ヶ崎遺跡の柄鏡形住居址は、他の例のように張り出し部に対状ピットを持たない。ということが前記した形態・構造等の特徴と照し合せてみた場合にいえることである。しかしいずれにしろ本住居址は、時期・形態・構造等において南関東西部地域の柄鏡形住居址と近似している、ということが言えよう。

以上、餅ヶ崎遺跡検出の柄鏡形住居址について述べてきたが、県下ではまだ該期の発見例は少なく、また後期に入って盛行期をむかえるといったように西部地域とは全く異なった様相を呈している。このことは一つの住居形態として受容されるに至る間に何らかの要因があったものと思われる。

参考文献

- 千葉市教育委員会 1980 「千葉市源町 餅ヶ崎遺跡発掘調査予報」
郷田良一 1982 「いわゆる『柄鏡形住居址』について」千葉県文化財センター研究紀要7
沼沢 豊 1974 「松戸市金楠台遺跡」
笹森健一 1976 「志久遺跡」埼玉県遺跡調査会